

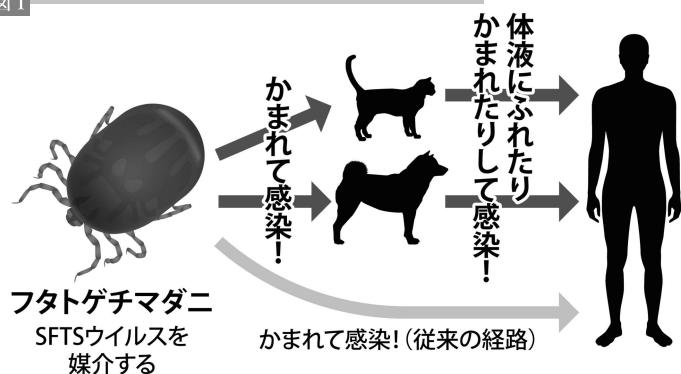


ヒトとネコ/イヌの SFTS について

SFTS(重症熱性血小板減少症候群)は、ダニ媒介性のウイルス感染症です。マダニを介して人に感染する経路が中心ですが、イヌやネコが SFTS ウイルスに感染し、それらの動物に噛まれたり、直接触れることで SFTS ウイルスに感染し発症した人の例も確認されています。(図 1)

SFTS ウイルスがヒトに感染すると、嘔吐、下血や発熱が起きます。5 人に 1 人以上が死に至る、怖いウイルス性出血熱です。

図 1 ネコやイヌからうつる感染症 SFTS



	症状	致死率
ネコ	食欲低下、発熱、黄疸、下痢など おうだん	6割以上
イヌ	食欲低下、発熱など	3割
ヒト	嘔吐、下血、発熱など おうと	2割以上

発症動物から獣医療従事者への感染は 11 例の報告が (2024 年 1 月 31 日時点 *1)、発症動物から飼い主への感染は 9 例の報告があり (2022 年 7 月 31 日時点 *2)、獣医療従事者だけでなく、イヌ・ネコの飼い主も要注意です。

発症動物から感染 したと推定される	獣医療関係者	11 例
発症動物から感染 したと推定される	飼い主	9 例

飼い主の皆様も注意が必要です !!

- ❗ ネコが屋外でマダニに咬まれないよう室内飼いの徹底を!
- ❗ 散歩後にマダニを発見したら動物病院で適切に取り除きましょう!
- ❗ ペット用のマダニ駆除剤の使用も重要!

もし、SFTSの動物と関わって2週間以内の発熱があれば、
医師にその旨を伝えましょう。

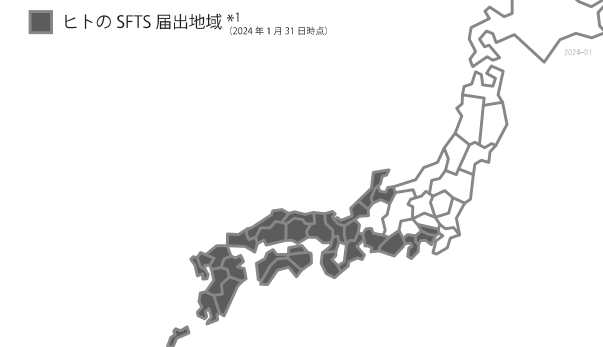
日本国内におけるヒトでの発生は 2021 年で 111 件、2022 年には 116 件、2023 年には 132 件が確認され過去最多となると共にここ数年で増加傾向にあります。*1(表 1)

ヒトにおける症例は春～夏にかけて多く発生し、西日本を中心に 30 都道府県の地域から報告されています。*1(図 2)

表 1 国内の SFTS ヒト届出症例の推移



図 2 国内の SFTS ヒト症例の届出地域



愛玩動物での発生は 2017 年にネコとイヌで症例が確認されてから、ネコは 782 例、イヌは 49 例 (ネコ/イヌともに 2023 年 12 月末時点) の報告がありました。現在は年間 100 頭以上、2023 年には 180 頭以上のネコが SFTS と診断されています。*3

ネコにおける症例は、3～5 月にかけて発生数がピークとなりますが年間を通して発生しています。*2 また、SFTS 発症ネコが認められるのは西日本に限局していますがここ数年で東へ拡大しています。*2,3,4(図 3)

図 3 東へ拡大している SFTS 発症ネコ/イヌが認められた地域



参考・出典
*1: NID 国立感染症研究所 HP
*2: IASR Vol.44 No.2 p31-32: 2023 年 3 月号
*3: 「SFTS の感染状況と臨床像」臨床的特徴と検査 JCMIM2024
*4: IASR Vol.40 No.7 p117: 2019 年 7 月号
*5: IASR Vol.42 p150-152: 2021 年 7 月号